

Colony Tokyo

コロニーとうきょう

Vol. **129号**

2003 (平成15)年
7月1日発行

30- 社会福祉 東京コロニー
法人
〒165-0023
東京都中野区江原町2-6-7
TEL 03-3952-6166
FAX 03-5952-6664
<http://www.tocolo.or.jp/>
(法人本部 事務局)



アートビリティギャラリー 6 作者 しばたこうへいちゃん・かわいい とり (詳しくは15頁をご覧ください。)

時評「歴史の転換点か...」

法人の主な動きから

2002年度総括事業報告書

苦情解決事業報告 (概要)

法人本部・コロニー中野・コロニー印刷所・IT事業本部・デジタルメディアセンター・アートビリティ・トーコロ情報処理センター職能開発室 〒165-0023 中野区江原町2-6-7)
葛飾福祉工場 (〒125-0042 葛飾区金町2-8-20) 立石工場 (〒124-0012 葛飾区立石8-50-1) トーコロ情報処理センター事業部 (〒162-0051 新宿区西早稲田2-2-8) コロ
ニー東村山印刷所・コロニー東村山・コロニー東村山第二印刷所 (〒189-0001 東村山市秋津町2-22-9) 大田福祉工場 (〒143-0015 大田区大森西2-22-26) 浜松町工場
(〒105-0022 港区海岸1-4-17) トーコロ青葉ワークセンター・トーコロ青葉第二ワークセンター・トーコロ青葉第三ワークセンター (〒189-0002 東村山市青葉町2-39-
10) 国分寺戸倉寮 (〒185-0003 国分寺市戸倉1-21-9) 東久留米第一氷川台寮・東久留米第二氷川台寮 (〒203-0004 東久留米市氷川台2-31-22)

時 評

「歴史の転換点か...」

理事長 勝又 和夫
かつまたかずお

1、二〇〇二年度を終えて

二〇〇二年度の事業報告・決算を本号9ページから掲載させていただきましたが、当法人にとつては、「胸突八丁」を超えてようやくの思いで目前に迫った頂きを見る思いがするものでした。一昨年の九月に理事長に就任し、専務理事・法人事務局長を兼ねたままに法人創立五十周年と予算規模八十億円超、所属員六〇〇名超の組織の責任を突如として負うことの厳しさを味わい、その中でも当法人だからこそその対外的な役割は継続したままという一年半でした。

また、この間では当法人の有史以来の基本である「当事者主体」「企業性」「民間性」というマインドについてそのいずれもが新たな福祉・経済環境下でその真価を問われることになりました。当事者主体においては「仲間の思いを共に実現する」としてきた運営を「利用者本位」という福祉サービスの供給者と受給者に分ける運営が求められ、企業性においては「企業と変わらない事業活動をこなすこと」が印刷業の構造的な不況に直面させられることになり、民間性については「法律を超えてでも当事者が望むことは実現させる」が法律や通知通達に違反が認められる場合は直ちに公表するとされるものでした。「当事者主体」について

は、真の「利用者本位」に徹すること、「企業性」については「企業をこえる企業体」と「福祉もビジネスである」にとらえ直すこと、民間性については「公金使途の明確化を図る中での遵法」と規制緩和を事業に活かすことが将来に向けた方向であると考えました。

2、いくつかの人事

二〇〇三年度は対外的な場面での役員改選がいくつもあり、その中でわが国の福祉の転換点を国の制度、政策の転換とは異なる意味で感じました。直接的なかわりでは、社会就労センターや障害者関係団体でのことですが、激変する外的環境に対し、いかに結束が図れる組織体制にするかが問われていると考える一方で、公的な政策転換の影響によってそこに属する多くの会員においては自らを守るに窮し始めており、このことが役員改選にも影を落とし始めたという事です。戦後五十年以上に亘ってわが国の経済と同様、福祉分野においても後追いではあったものの右肩上がりに成長・拡大してきたものが急激にブレーキをかけられ、下降局面の中で結束から拡散方向に力が働き始めていないかという心配もあります。

3、明日に向けて

二酸化炭素の排出量規制を定めた京都議定書から二年、食品リサイクル法や建設資材リサイクル法、容器包装リサイクル法等、地球環境を守るための法律が次々と定められ、十五年後の環境ビジネスは五十八兆円に達するであろうと試算されています。この話しを聞くたびに、私は江戸時代の江戸の町における徹底したリサイクルを思い、わが国の歴史にはこうした文化が根付いているはずだと考え、この中に新事業のヒントはないかと思わされてきています。

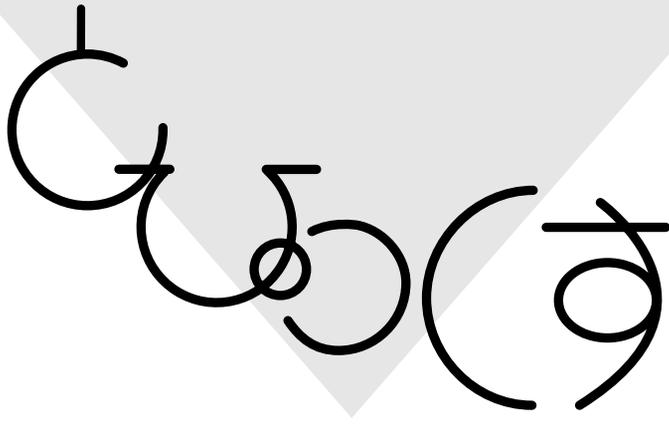
このことと同様にセルフ協が二年前かけて検討してきた「社会就労センター」のあり方検討会最終報告」がこの二月に発表されましたが、その中の社会就労センターの歴史的、法令的な検討の章を極めて印象深く読み、わが国の歴史上の出来事として「授産」が果たした役割の大きさを改めて感じました。

こうした歴史的な視点から見た時、私たちの福祉分野に起こりつつあることについても「今がどこにあるか」をいかに覚悟をもって認識するかが問われており、その中ではいつのどんなに時代でも弱い立場にある人たちがいかに手を携えて互いの弱さを補い合えるかではないかと思えてきます。

中野工場

バス停のパン屋さん 「フタバベーカリー」開店

印刷専門の中野工場でパン屋さんを始めた？何だか信じられませんか。保健所から営業許可をいただいていたから早一ヶ月。慣れない仕事を覚えながら、私はいまだにそんな思いをしています。



昨年六月、中野工場では新規事業のプロジェクトチームを作り、自主生産の仕事を皆で考えていました。請負の仕事では、どうしても安定した作業が確保できないからでした。そんな時、中野区障害者福祉事業団の方から世田谷でパン屋を経営する方を紹介していただいたのです。

この方はパン作り二十年のベテラン。技術と経験、使用している製造機械などを福祉に役立てたいと願っていました。一緒に汗を流せる仲間を探していたのです。しかし話はトントン拍子には進みませんでした。パンを何処で作り、誰が買ってくれるのか、などが難しい問題でした。

さて、東京コロニーでは大きな異動が昨年から今年の冬にありました。中野工場の印刷、仕上げ部門が東村山の新工場へ。法人ビルに入っていた全部署が中野工場へと。どの部署も場所が狭くて、やりくりが大変でした。それでもお互いに譲り合い、何とかパン工場のスペースを作り上げたのです。世田谷からの引越は三月。四月中旬からは試作品を作りながら販売開始。五月一日にはお披露目のセレモニーを行いました。出席者は約五十人。いろいろなパンを作って、お客さまにご賞味していただきました。とても盛況でした！

また、この席で所内公募による愛称「バス停のパン屋さん」を名付け

た人も表彰。店名の「フタバベーカリー」は世田谷で開いていたお店の名で、コロニーでもそのまま使うことにしました。

現在のスタッフは店長と従業員一人、利用者二人の計四名。製造、販売ともまずまずの滑りだし（甘いかな？）ですが、すでに幾つかの問題も抱えています。新しい仲間の迎え入れ、早朝、休日の勤務体制などです。とにかく分からないことが多いので、しばらくは、あれこれ試してみることが必要なのでしょう。皆さんの感想も是非聞かせてください。
(フタバベーカリー 長沢和俊)



フタバベーカリーのメンバーと関係者

東村山工場

新たな仲間と力を合わせ見事優勝!!

五月二十五日、東村山市運動公園で行われた東村山市春季市民体育大会テニスボール大会のスマイルの部に東村山工場テニスボールチームは参加しました。二年ぶり久しぶりの参加となった今回の大会は、特に中野工場から転動してきた新しいメンバーと新たに入所した利用者、そして従来からのメンバーが互いの期待にこたえる活躍とチームワークで実力を発揮、見事優勝することができました（二チームだけの参加ではあ



5月1日セレモニーで

ります。)
 日曜日の朝、みんなで集まって和気藹々、勝負の中にも楽しくティーボールができました。秋にはさらに大きな大会が予定されていて期待が高まる一日となりました。

（営業部長 中原達夫）



大田工場

営業部浜松町工場への移転

五月二十七日に営業部第一課四名と営業部長が浜松町工場に移り、営業活動をスタートさせることになりました。

移転の目的は、移動時間の短縮により営業効率を今まで以上に高め、都庁各局への深耕と新規拡大に努め各営業員がお客様へ緻密なサービスを提供し、営業力のレベルアップを高めていくことだと思えます。また、経費の削減に向けた取り組みとして、営業車を二台減らし、都庁担当は大江戸線を活用することで都庁訪問の時間と経費の削減を行います。

移転については、営業活動を円滑に進めるために、総務部や製造部の協力が無くてはならないことと思えます。営業員も入稿伝票、原稿、校正戻り、変更指示等を正確に行い、各部署への確に連絡することが相互での信頼関係を築き円滑な仕事の流れになることだと思えますので、ご協力をお願いいたします。

浜松町工場（第二製造課）とは今度お互いに顔が見えるところに居るので大田工場の製造と総務関係の情報を毎週火曜日に朝礼を実施していきたいと思えます。

これから浜松町工場は、総勢二十三名（製造十八名、営業五名）となります。各事業所の皆さんこれからの浜松町工場に注目してください。

（営業部長 高山定夫）



IT事業本部

障害者アートポータルサイトに対する助成金が決定

アートビリティが新年度の事業として社会福祉・医療事業団の「平成十五年度長寿社会福祉基金特別分」に申請していました企画「インターネットによる障害者アートのポータルサイト構築事業」に対する助成四三〇万円が、この度正式に決定いたしました。

アートビリティの活動はプロとして活躍できる作家を選別するという「職業としての芸術活動」を支援する取り組みですが、一方でたくさんの方々の団体・個人による「レクリエーションとしての美術活動」が活発に行われていることも事実です。アートビリティとしては新人発掘の観点からも、こうした美術活動を実施している障害者団体との接点をもつと持つ必要があると考え、今回の企画提出に至りました。

このサイトの構築により、全国各地で独自に開催されている障害者アートのデータベース化をはかり、障害者アートに興味がある方がインターネット上で気軽に閲覧してもらうことが可能になります。印刷等のメディアに使う絵をセレクトするというアートビリティの趣旨にはこれまで沿わなかったような作品も、このサイトではほとんど収集して紹介していきます。是非とも、ご注目・ご期待ください。（サイトの完成は、本年度末を予定しています。）

（所長 戸原一男）



葛飾工場

専用配送センターの完成について

去る五月八日、埼玉県八潮市に当工場が専用できる配送センターが完成し、その入所式が関係者出席のもと取り行われました。敷地面積二、二四四㎡、延床面積二、三七六㎡、鉄筋コンクリート造二階建、昇降機付きの堂々たるものです。

葛飾福祉工場の配送センターは、これまで六カ所に分散しており、分散に伴う配送センターの業務が、ハード面・ソフト面において非効率的な面が見られましたが、それと共に倉庫の賃借料が毎年膨大な金額にのぼり経営を圧迫している一要因となっていました。このため、数年前から倉庫を一カ所に集中したいと考えていましたが、一昨年ほど要件に合う物件を紹介され、買取する方向で検討を重ねてきましたが、最終的に東京都の承認が得られなかったため、葛飾福祉工場がこの段階で取得することは、断念せざるを得ませんでした。しかし、その後当工場に代って当工場の希望を叶えてくれる業者により、今回の入所式となったものです。

配送センターは、工場から車で十

五分程の、首都高六号三郷線の八潮PAのすぐそばにあります。また、この一帯は、準工業地帯でたくさん配送センターが並んでおり、常磐新線が開通しますと近くに新駅が開業を予定するなど好立地にあります。この倉庫が完成したことによって、配送業務の効率化が図られることはもちろんですが、今後の業務の拡大にもはずみがつくものと期待しています。

(専務理事 小松孝良)

青葉ワークセンター

お花見、全生園にて

春の心地よい陽気の中、四月四日、昨年と同様のワークセンターから程近い多摩全生園でお花見を行いました。桜の開花のしくみは、夏の間翌年の花の元となる芽をつくり、秋から冬にかけて休眠し、一定の低温が続くと休眠物質の作用で眠りから目を覚まします。目を覚ました桜は、生長の時期にあたる二月以降の気温によって開花の時期が変わってくるらしいです。偶然にもこのような条件と、日々のみんなの行いの善さとが相まって、今年も満開の桜の屋根の下でのんびりと爽やかな気持ちで心癒される空間で、お弁当を頬張れ

た事、過ごせた事をとても嬉しく思いました。(昨年の開花は例年にならぬ早い開花であったため、去年の同日であったなら「お花見」ならぬ「お葉見」になっていたでしょう。) 昼食後は、気の合う人と歓談したり、バドミントンや野球といったスポーツをしたり等、みんな思い思いの時間を過ごしました。お花見を実施するにあたって、毎年のことながら互助会スタッフ並びに関係者の方々は、天候を気にしながらの準備から、何ごともなく無事に遂行されるまでとても大変だったと思います。心より感謝しております。どのイベントでも言えるのですが、参加者全員の協力があるからこそ、無事にそして成功するのです。来年も薄ピンクの屋根の下を、楽しみにしています。

(青葉ワークセンター 古谷雅宏)



生活寮

東久留米市の福祉との連携

氷川台寮がオープンしてようやく一年が過ぎました。入居者の皆様に寮での生活に慣れていただくこと、日々の生活寮の運営を軌道にのせることに全力投球してまいりましたが、一方で地域生活支援事業の一環として東久留米市内の活動への参加をしてまいりました。そのご報告と今後について述べさせていただきます。

まず、現在の東久留米市の状況についてですが、この四月から組織が改編され健康福祉部長には前参事の君島部長がなられ、障害者福祉については今まで以上に重きをおかれることになりました。また昨年十二月より今まで任意の団体であった東久留米市福祉施設代表者会が行政にも意見を言える団体として正式にスタートしました。直近では五月二十三日に開催され、東久留米市社会福祉協議会が運営している生活寮に欠員が生じたこともあり生活寮に関することが議題の一つになりました。その中で氷川台寮の現状をお話し、ホームヘルパーやガイドヘルパーの重要性を意見として述べました。また、市内に重度生活寮（二寮）を建設する計画が発表され、将来的には市内

の生活寮が六ヶ所になることもあり共通の課題に取り組んで行くために、代表者会の一つの部会を作ることも提案されました。今後はこのメンバーとしても役割を担い活動して行くことになると思います。

また、この他には東久留米市障害者雇用促進協議会に昨年はオプザーバー的な立場でパネル展に参加しましたが、この六月からは正式な委員として参加することになりました。今後、様々な役割を担っていくことになると思います。

この四月から支援費制度が始まりました。ここで重要なことは措置から契約にかわり利用者主体がうちだされたことはもちろんですが、援護の実施者が市区町村になったことでもあります。このことは、それぞれの市区町村により「温度差」が激しいということにつながります。つまり、氷川台寮の場合、二寮を併せてみる東久留米市他六つの市区が援護の実施者となつていますが、ガイドヘルパーの時間数やホームヘルプについての考え方や様々な違いがあります。そこで、どの利用者についても同じようなサービスが受けられるようにするため、法人としても市や区にはたらしかけていきたいと思えます。また入居者のヘルパー利用に対し具体的な連絡調整をするといった業務が必要になってきます。今後は、具体的にガイドヘルパー

やホームヘルパーの利用についても入居者やご家族と相談しつつ行って行きたいと思えます。「地域で普通に暮らすこと」のためには東久留米市との連携は欠くべからざるものであります。今後さらに密接な関係を持ち、利用者のQOLをいかに高めていくかを行政と手を携えていくことがこれから課題だと思えます。

（生活支援係長 中村日出王）

法人本部

賃借ビルからの完全退去

一九九二年から十一年間法人ビルとして賃借していた「セントラル江古田ビル」は、一月の一階から三階部分の中野工場移転に続いて、三月十五日に法人本部事務局が中野工場旧館二階に移転したことにより完全退去が完了しました。

長期賃借契約の中途解約での退去であったことから難しい問題もありましたが、ビルオーナーの深い理解と理事をはじめとする多くの方々のご支援をいただき無事移転することができ感謝申し上げます。

また中野工場にも、コロナー中野の施設閉鎖を前提にトーコロナー情報処理センター事務局・職能開発室・デ

ジタルメディアセンターの三事業所が同時に早稲田より移転したことで、僅か三カ月という短い期間に複数の事業所が増えるというあわただしさや環境の変化を乗り切っていた大きな苦勞をかけた。今度の移転に伴い一時的には大きな費用が発生しましたが、多くの事業部門を統合できたことにより、経費削減のみならず事業運営面でのメリットも大きく、早期償却が図れるものと確信しています。

新事務所は、以前よりはかなり手狭ではありますが、何とか限られたスペースを活かし機能性を持たせた形で落ち着けたと思えます。しかし、従来のような会議等に使用するスペースについては限界があることからご迷惑をおかけすることとなりますが、ご理解とご協力をお願いいたします。

東京コロナー発祥の地への移転でもあり、引越し作業で法人本部事務局に保管されていた書類を整理する中で、法人の長い歴史とその重みを実感することができたようにも思えます。

支援費制度のスタート・新会計基準への移行・四事業本部体制施行等々、目まぐるしく激変する情勢の中、気持ちを新たに取組んで行きたいと思えます。今後ともよろしくお願いたします。

（事務局長 神野敏夫）

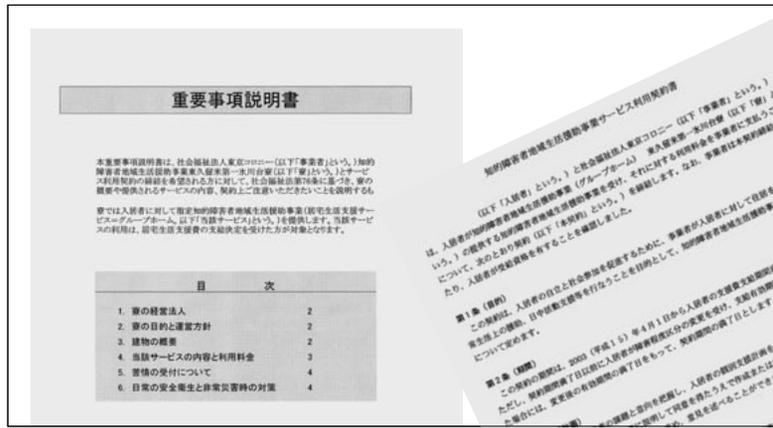
法人の主な動きから

支援費制度における契約状況 ―その実数と課題

二〇〇三年四月一日からの支援費制度に向けて、昨年度から支援費プロジェクトで準備を進めてきました。三月の最終週に五つの施設と三つのグループホームの利用契約を終了しました。計一三一名の利用者の皆様との契約は、利用者ご本人への説明の後、全て司法書士の立会いの元に行いました。(各施設等の定員と契約人数は以下の表のとおりです。)

昨年度は、利用契約書や重要事項説明書等の書類を作成することや、支援費の単価の決定とそれに基づく補助金の状況などを追うことが主な課題となっていました。また、支援費に移行する施設の従業員に対する制度の研修会も法人統一、事業所単位と実施してきました。しかし、支援費制度が始まった現在、各々の施設の中で支援者である従業員が、どれだけ「利用者本位」の意味を真に理解し、それに基づいた支援ができるのかといった問題では、まだスタート地点に立つたばかりです。個別支援計画が策定され、今後それに基づき支援が始まっています。一人一人の利用者が何を望み、それに向

かってどのような支援をすればよいのか、その際の情報収集や技術修得の努力をいかにに行い、現場で実践していくかが我々に問われています。
(福祉事業本部長 加藤留美子)



支援費制度 利用契約についての報告

(単位：人)

施設名	施設種別等	定員	契約人数	契約日	参考：相互利用者
コロニー印刷所	身体障害者通所授産	45	28	2003/3/28	14
青葉ワークセンター	身体障害者通所授産	35	1	2003/3/27、28	17
青葉第二ワークセンター	身体障害者通所授産	30	30	"	0
コロニー東村山印刷所	身体障害者通所授産(入所)	30	17	2003/3/25、26	0
	身体障害者通所授産(通所)	18	9		9
コロニー東村山	身体障害者通所授産	20	13	"	10
東久留米市第一氷川台寮	グループホーム	6	6	2003/3/24	
東久留米市第二氷川台寮	グループホーム	6	6	"	
国分寺戸倉寮	グループホーム	4	4	"	
計	計	194	131		50

社会事業授産施設社会就労センター

ココニー中野の施設廃止

五月二十四日の第三十二回評議員会、第一七五回理事会において、二〇〇三年七月一日付けで社会事業授産施設ココニー中野を施設廃止することが提案され、承認されました。

一九六八年に東京ココニーが社会福祉法人として認可を受けたとき、その母体となったのがココニー授産所でした。その後ココニー授産所はココニー中野と名称変更し現在に至っています。

昨年十月に社会事業授産施設ココニー東村山第二印刷所が新設された折に、ココニー中野から設備や主要な機能などを移転しましたが、新施設が本格的に稼動し始めたことを受け、今年七月をもっていよいよ施設としての役割を終えることになりました。

施設の閉鎖に伴い、定款の変更や諸規定の廃止および改定が施設廃止の日をもっておこなわれることとなります。また閉鎖施設の財産処分が必要となりますが、敷地については廃止施設分と残る施設であるココニー印刷所分に按分し、建物は法人施設として当分の間使っていくこととなります。設備などの多くはすでに

ココニー東村山第二印刷所に移っていますが、現在残っているものはココニー印刷所に引き継がれます。

永年親しんできたココニー中野の名前がなくなることに一抹の寂しさを感じますが、これからは、ココニー印刷所とココニー東村山第二印刷所が、その機能と歴史を引き継ぐこととなります。

(社会就労事業本部長 武者明彦)



専務理事・常務理事の選任と

欠員評議員の選任

本年四月二十四日に開催された第一七四回理事会において、以下の役員人事が議案として提出され承認となりました。

小松孝良専務理事の選任
任期二〇〇四年十一月二十七日迄
(引続き福祉工場事業本部長及び葛飾福祉工場所長兼務)

武者明彦常務理事の選任
任期二〇〇四年十一月二十七日迄
(引続き社会就労事業本部長及びココニー中野所長兼務)

これによりかねてからの懸案であった勝又理事長の専務理事兼務を解き理事長職専任が実現しました。同時に職務権限の見直しもおこなわれ、専務理事は「当法人の授産活動等の受注・生産活動に関し」、理事長専決事項を代理するとともに、「管理職の人事に関し」、判断を行う、また常務理事は「当法人が提供する福祉サービスに関し」、理事長専決事項を代理するとともに、「監督職の人事に関し」、判断を行う事が決定され、今後の東京ココニー運営の三本柱体制が確立されました。

あわせて三菱商事株式会社の社内人事異動により、二〇〇三年三月三十一日付けで評議員を退任された加賀山元前環境室長の後任評議員選任についても承認されました。

秋田 実評議員の選任
任期二〇〇四年十一月二十七日迄
(三菱商事株式会社広報部長代行 兼環境室長)

以上の新体制の下に引続き東京ココニーの事業の充実に努めてご理解と暖かいご支援を切にお願い致します。

(事務局長 神野敏夫)



2002年度

総括事業報告書

1、当法人の事業結果

厳しい経済環境と雇用情勢のなか、本年度事業において売上高七十二億円を計上し三三〇名の障害のある人の雇用（一二六名）・就労（二〇四名）を維持し、これらの人に対する支払人件費総額は六三二、八四二千円（一人平均一、九一、一千円）でした。また職能開発分野においてSOHO支援事業として当法人に在籍しない在宅する障害者十六名に対し七、四九八千円の仕事を供給するとともに、アートビリティ事業においては登録されている四十八名のアーティスト作家に九、八八九千円の使用料を支払いました。なお、本年度より本格的に取組んだ知的障害者の地域生活支援の事業である生活寮では十六名に安心して暮らせる生活の場を提供しました。これに対する当法人への公的補助金総額は、六七二、二一七千円であったのに対し、それに匹敵する所得税等の諸税や社会保険料等六六四、九五八千円（公的補助金に対し九九・二％）の社会的コストを負担してのものであり、言い換えるならば五、一五九千円（六七〇、二一七千円ー六六四、九五八千円）の社会的コストで前述の効果をあげたものです。

2、事業結果の概要

国は、社会福祉基礎構造改革の環境として二〇〇三年四月一日より「措置制度」から「利用契約制度」へ移行させることとし、この時期に

合わせて「新会計基準」を始めとする諸施策を完全実施していく前提として、これまでの施設ごとの経営から法人単位での経営を求めるとしています。

当法人は、これらの新たな環境に対応していくため、法人経営および運営体制の見直しをこの年度においても引き続き行いました。具体的には、法人事務局の強化と財務体質の改善に向けて本格的に着手し、併せて事業所長級を含めた幹部従業員の人事も実施し、これらの施策を通じて法人としての機能強化を図りました。また、本年度決算において新会計基準での決算処理ができるよう新会計基準への移行を確実に遂行していくことと、利用契約制度下における当法人の施設サービス内容について整理し明文化するために、「利用者支援マニュアル」の策定に取り組み、さらに本年度においては「支援費制度プロジェクト」や「教育研修委員会」の活動の本格化とともに司法書士、弁護士との顧問契約を締結しこれらを本格的に実施に移しました。なお、法人運営の今後のあり方について、「東京コロニーの運営の今後について」のあり方に関する検討会（非常勤理事三名により構成）を上半期に発足させ、十二月の中間提言、三月の最終提言にもとづき、これを反映させた二〇〇三年度事業計画を策定しました。

とともに、各種団体を通じた活動の重要性もあるとして全国社会福祉協議会、東京都社会福祉協議会、日本障害者協議会、社団法人ゼンコ口等における当法人としての役割を本年度も積極的に果たしました。

長年にわたる不況や産業構造の改革により、当法人の主力事業である印刷業は非常に厳しい経営状況が続いており、事業再建に向けて本年度にコロニー東村山第二印刷所を開設しました。このことを契機として印刷事業の統合化および再編成を一部実施したものの、印刷事業全体のIT化やISO認証取得等の課題には、本格的に取組むまでには至りませんでした。

情報処理事業は、ネット化社会に対応するために先進的な分野に踏み込んだ事業展開を図ることとしていましたが、デジタルメディアセンターにおいての取組みの遅れが目立つものでした。

縫製・製袋・防災・安全用品等製造販売事業は防災事業が好調だったことによりトータルとしては黒字基調で推移しましたが、縫製・製袋部門の改善には依然として課題を残しました。

メールサービス事業は、売上高の減少は続いているものの内部加工等の努力により経営的には前年度を上回る状況でありました。

生活施設は、本年度より東久留米川台寮（第一・第二合計定員十二名）を事業開始し、知的障害者地域生活援

助事業（グループホーム）が国分寺戸倉寮と合わせ合計十六名定員の規模となりました。また、この事業においては、東久留米市内の諸団体等と連携してこの地域での役割を担い、地域生活援助事業についても取り組んでいくとしていましたが、日常運営のために多くの時間を要し、そこまでの取り組みには至りませんでした。

中野区をはじめ基礎自治体から要望の出ている地域の福祉ニーズに 대응するための事業については、協議等は行ったものの具体化には至りませんでした。また、社会事業授産施設コロニー中野については次年度の早い段階での施設閉鎖をすることが確定しました。

また、この年度においては福祉工場にかかわる東京都との協議（大田工場経営改善検討会、「葛飾工場倉庫用地問題」等）により一定の結論を得るとともに、十一月の役員等の改選では理事・監事全員と十六名の評議員は再任されましたが欠員補充等により新たに三名の評議員を選任しました。さらに、中野工場旧館の再活用や法人本部ビルの返却等により固定費削減に一定の目途をつけました。

法人全体として、以上の事業を通じて利用者へのサービスの向上に努めるとともに、「苦情解決事業」や「利用者支援マニュアル」等の実施による質的向上への取組みも行いました。なお、本年度の法人トータルとしての経営状況は新会計基準への移行処理や東京都の指摘による過

度損益の修正を行ったことから四二、九三二千円の欠損金計上となりましたが、当該年度の事業だけを見た場合もコロニー東村山第二印刷所（印刷新工場）の立ち上がり時間に時間を要したことから二千万円程度の欠損金計上でした。

3、各事業の概況

(1) 法人本部

法人全体の全般的諸問題の処理、各事業所の運営を事業計画に沿って確実に行うために必要な実務を行い、法人全体の事業運営の円滑化と中・長期的な課題を検討・推進するために必要な取組みを行いました。また、障害者問題全般についての

情報収集と提供をおこない、課題解決のために必要な対外的な活動を担いました。

本年度に予定した社会事業授産施設コロニー東村山第二印刷所の開設に際し、関東財務局や社会福祉・医療事業団、東京都、日本財団様等の事務処理をおこない十月一日には開設させました。

生活施設については法人本部で掌握し、生活寮の運営の安定化の取組みを行いました。

(2) IT事業（IT事業本部/デジタルメディアセンター・トータル情報処理センター事業部・トータル情報処理センター）職能開発室・アートビリティ事業

情報処理事業は産業構造の革新に対応できる事業体として各々の事業

目的にそった展開をすることでありますが、デジタルメディアセンターにおいては市場環境の変化への対応等について課題が表面化し、事業本部全体としては完全には達成できませんでした。

従来からの教育訓練事業や在宅就業事業、さらには市からの委託事業等はそれぞれの事業目的に沿って確実に実行し、有料職業紹介事業についても在宅する重度の障害を持つ人たちの就労支援に大きな役割を果たしました。

アートビリティ事業では、登録作家の再登録作業を行い、「こどもの絵.com」事業については本格的な展開を図り始めました。

(3) 印刷事業（印刷事業本部/コロニー中野、コロニー印刷所、コロニー東村山印刷所、コロニー東村山、コロニー東村山第二印刷所、東京都大田福祉工場）

印刷事業は依然として厳しい状況が続いていますが、本年度は新工場（コロニー東村山第二印刷所）の事業を軌道に乗せることを最重要課題として取組み、新工場の開設と操業は計画どおりに実施することができました。併せて計画した経営効率の

追及や、IT化対応さらには、循環型社会への対応等には完全に取組みきれませんでした。経営改善への見通しは次年度の課題として残されました。

(4) 縫製、製袋、防災、安全用品等製造販売事業（東京都葛飾福祉工場）

縫製部門は、赤字削減のために生産効率の悪い小ロットの受注を減らし、大口ロットの受注を安定確保するよう営業展開を図りました。

製袋部門は価格競争がさらに激化しつつあり、特徴ある事業とするための取組みとともに封入封緘事業の技術の向上と営業活動の強化を行いました。

防災・安全用品等製造販売事業は順調に遂行されましたが、次年度に向けては当部門の売上を維持するため、さらなる営業活動の促進やホームページを本格的に活用する等により民間に向けても販売活動を強化することとしています。

(5) 情報処理、メールサービス、清掃事業（トータル情報ワークセンター・トータル情報第二ワークセンター・トータル情報第三ワークセンター）

生産における絶対量が伸び悩み、競争の激化によって受注単価が低迷する傾向は続いています。より付加価値を得るための生産体制の見直しを図り、メールサービスに関連した情報処理業務や作業者の特性に応じた簡易作業の受注につとめ、一定の成果を得ることができました。

利用者定員の充足以後、二次障害や障害の重度化が目立ち始めており、これらの対策については支援費制度における個別支援計画により具体的に対応することとしました。

清掃業務は合築施設全体および近隣施設での毎日の清掃を行うとともに、外部清掃を取り込める体制を整

え、新たな職域の開拓にも取り組みを開始しました。

(イ)その他の事業

「ゼンコロ四十周年」および「アジア太平洋障害者の十年」の事業
十一月一日に行われた「ゼンコロ四十周年事業」に参加するとともに「アジア太平洋障害者の十年」最終年事業に関しては日本障害者協議会の要請にもとづき協力しました。

障害者製作品の販売事業
身体障害者福祉法第二十五条に定めるわが国唯一の指定法人として葛飾福祉工場（製袋事業）およびIT事業本部を中心に事業を行いました。

なお、補助金を得ない事業であることから特別会計とはしませんでした。

4、各事業の概況

(イ)本年度決算額は「総括決算損益推移表」に示すとおりですが、事業結果だけを見た場合は前年度に比べやや好転しました。

(ロ)「在籍者の推移」は全事業所合計で一名減の六一八名（障害者比率五三・四％）でした。

(ハ)「苦情解決事業」に寄せられた苦情件数は六件（青葉三件、東村山三件）で、その内の一件が未解決であり、その他前年度から持ち越していた二件（青葉一件、東村山一件）が本年度中に解決されました。また、苦情解決第三者委員会は二回開催し、必要な協議を行いました。

補助事業および補助金による施設設備等整備事業報告（順不同）

(1) 補助事業

補助金	事業内容（事業所名）	補助金額（総事業費）
日本社会福祉弘済会	重度障害者在宅パソコン講習事業 （トーコロ情報処理センター職能開発室）	6,540千円
三菱商事株式会社 環境室	重度障害者在宅パソコン講習事業 （トーコロ情報処理センター職能開発室）	7,000千円
東京都	施設機能強化推進費に関する事業 （コロニー東村山印刷所）	750千円
	施設機能強化推進費に関する事業 （コロニー東村山）	450千円 （623千円）
日本社会福祉弘済会	ケースサポートシステムのバージョンアップ （コロニー東村山）	400千円 （400千円）

(2) 補助による施設設備等整備

補助金	事業内容（事業所名）	補助金額（総事業費）	
東京都共同募金会	DTP部門のパソコン一式 （コロニー中野）	200千円 （315千円）	
	DTP部門のパソコン一式 （コロニー印刷所）	150千円 （315千円）	
	検眼機 （コロニー東村山印刷所）	150千円 （194千円）	
	冷蔵庫 （コロニー東村山）	100千円 （117千円）	
	パソコン一台 （トーコロ青葉ワークセンター）	100千円 （138千円）	
	パソコン一台 （トーコロ青葉第二ワークセンター）	100千円 （138千円）	
	掃除機一台 （トーコロ青葉第三ワークセンター）	100千円 （103千円）	

利用者および就労人員

(1) 在籍者の推移

自2002年4月1日 至2003年3月31日

（単位：人）

	前年度末 在籍者数	期 中 増 減		主な減員理由		年度末 在籍者数
		増員	減員	自己都合	疾病、その他	
雇用就労者	132	12(8)	16(7)	4	5	119
授産施設の利用者	190	21(7)	28(16)	11	1	183
パート等	7	1(0)	1(0)	0	2	7
訓練生等	10	25(10)	14(5)	4	11	21
障害をもつ就労者 計	330	59(25)	59(28)	19	19	330
障害をもたない就労者	284	53(31)	53(29)	16	1	283
合 計	614	111(56)	112(57)	35	20	613

（注）1（ ）内の数字は法人内異動をあらわします。

2 年度末在籍者数に非常勤嘱託医5名と非常勤栄養士1名は含まれていません。

(2) 障害・非障害者別総括表

2003 (平成15年) 3月31日現在

(単位:人)

事業所名	障害等級別						計	知的障害者	精神障害者	手帳を持たない障害者	非障害者	+ + + 総人員	左のうちの車いす使用者(再掲)
	1	2	3	4	5	6							
法人本部	0						0				12	12	0
デジタルメディアセンター	8	2					10				11	21	5
トーコロ情報処理センター事業部	4	4	2			1	11				4	15	9
トーコロ情報処理センター職能開発室	8	3					11				4	15	9
IT事業本部							0				2	2	
コロニー印刷所	13	12	1	1		1	28	10	1		10	49	12
コロニー中野	7	6		1	1	0	15	0			26	41	8
コロニー東村山印刷所	11	15	5				31	7	2		29	69	14
コロニー東村山	8	4	2	1			15	9			6	30	2
コロニー東村山第二印刷所	3	4	1		1		9	1	1		22	33	2
東京都大田福祉工場	21	5	5	1	1	1	34			1	50	85	23
トーコロ青葉ワークセンター	17	3	2	1	1		24	17			5	46	11
トーコロ青葉第二ワークセンター							0	30			11	41	
トーコロ青葉第三ワークセンター			1				1		24		5	30	
東京都葛飾福祉工場	12	11	8	2			33	4	1		74	112	10
計	112	69	27	7	4	3	222	78	29	1	288	618	99

(注) 本表には、従業員、授産施設の利用者、嘱託、臨時、パート等すべてを含んでいます。
 (なお、同一敷地内にある複数事業所兼任の嘱託医は、嘱託雇用を結んでいる事業所のみに記載されています。)

貸借対照表

2003(平成15)年3月31日現在 (単位:千円)

資産の部		負債の部	
流動資産	4,032,622	流動負債	2,217,339
当座資産	3,492,494		
棚卸資産	443,289		
その他の流動資産	96,839		
固定資産	3,469,089	固定負債	2,857,942
有形固定資産	2,654,078		
無形固定資産	6,576		
投資等	808,435		
		負債の部合計	5,075,281
		基本金の部	
		法人基金	1,182,456
		積立金	600,000
		当期末処分剰余金	643,974
		基本金の部合計	2,426,430
資産の部合計	7,501,711	負債及び基本金の部合計	7,501,711

総括損益計算書

自20022003(平成14)年4月1日 至2003(平成15)年3月31日 (単位:千円)

	借方		貸方	
経常損益	売上原価	6,086,484	売上高	7,262,782
	販売費	875,951	委託事務費収入	367,501
	一般管理費	914,633	委託事業費収入	246,649
	委託事業費	359,732	サービス推進費収入	4,065
	事業外費用	203,379	補助金収入	270,240
特別損益	特別損失	564,965	事業外収益	404,708
	特別利益		特別利益	406,266
	小計	9,005,144		
	当期繰越金	-42,932		
	合計	8,962,212	合計	8,962,212

財産目録

2003(平成15)年3月31日現在 (単位:千円)

資産の部		金額
科目		
基本財産	土地	1,193,742
	建物	843,308
	合計	2,037,050
運用財産	現金・預金	1,740,280
	受取債権	1,773,502
	未収金	39,229
	棚卸資産	443,289
	他の流動資産	36,322
	固定資産	1,432,039
	合計	5,464,661
資産総額		7,501,711
負債の部		金額
科目		
固定負債	長期借入金	1,057,603
	退職給与引当金	883,345
	未決済	280,000
	他の固定負債	636,994
	合計	2,857,942
流動負債	支払債務	1,167,115
	短期借入金	278,435
	賞与引当金	140,114
	他の流動負債	631,676
	合計	2,217,339
負債総額		5,075,281
差引正味資産		2,426,430

苦情解決事業報告(概要)

二〇〇一年度に東京コロニーの苦情解決実施規程および苦情解決第三者委員規程にもとづき発足した本委員会を、二〇〇二年度には二回開催しました。

前年度に提出された苦情申出は計十八件でしたが、本年度については計六件でした。前年度に比べて苦情の申出が少なくなっていますが、私どもは決して喜ばしいとは考えておらず、むしろ、施設サービスの質の向上のためには、苦情を含めた疑問や意見が出し易い環境がつかられ、意見・提案が出せる場を作ることが望ましいと思います。

苦情解決システムが発足して三年目となる二〇〇三年度の取組みとして、以下の二点を課題としてもってほしいと思います。

まず一点目は、「苦情解決システム」の意義に対する従業員全体の理解をさらに深め、「苦情解決」対応に関する資質向上に努めることです。

利用者との人間関係や仕事上の関係が深く、接する時間が長いのは従業員の方々であり、利用者に対して日々関心を持ち、利用者の施設利用の目的やそのための自分達の役割を十分に認識していくことが大切です。支援費制度の始まりに際し、各作業施設・グループホームで個別支援計画が整備されたことは意義深いことであり、これをおおいに利用して利用者の施設利用に関する意志の尊重が図られるよう、従業員間の意識の統一を図ってほしいと考えます。

二点目として、苦情解決のためのいろいろな方法について知っておくことです。

まず、第三者委員の関与については、苦情解決事業そのものにおける役割は当然のことながら、その対等性や中立性という立場を活用して、

建設的な意見・提案のできる場面を創出するよう配慮していただきたいと考えます。たとえば事業所で第三者委員を交えた利用者や従業員とのグループミーティングの開催などのアイデアもおおいに歓迎しますし、できるだけの協力をしたいと考えています。

しかし重要なことは、ふだんから「話しを聞く場を設定すること」であり、日常的な相談ができないために、疑問が生じたり、そのこと自体が「苦情」となって表出することも見受けられるからです。また、本人やご家族から繰り返し同様の苦情が寄せられる際にもその都度きちんとした話し合いの場を設けて、苦情の意図を受けとめることが重要です。さらに、このような場合、必要に応じて第三者や利用者側の代弁者等にも参加していただき、問題の共有化と解決方法への共通課題に取り組みことになると考えられます。

お互いの立場をつなぐパイプがあるということこそが大切なことであるという姿勢で臨むことが重要だと思えます。

最後に、苦情を表出しない人や表現の仕方がよくわからない利用者についても十分な配慮が必要であるといえます。そういった意味で、「苦情」以外の意見・提案を出せる場を作ることが積極的に進めてほしいと思います。

今後も、苦情が表出し易く、またその苦情の解決に利用者や一体となって取り組む「風通しの良い」施設風土を醸成していけますよう、関係者の一層の努力をお願いします。以上

苦情解決第三者委員会(二〇〇二年度)

野村 敏(座長)、朝日 雅也、
比留間 ちづ子、島田 肇

苦情申出状況

事業所	申出件数	申出内訳			解決状況		
		対事業所	従業員対利用者	利用者間	事業所内解決	第三者委員関与	未解決
法人本部(含生活寮)	0	0	0	0	0	0	0
IT事業本部(三事業)	0	0	0	0	0	0	0
コロニー中野、コロニー印刷所	0	0	0	0	0	0	0
東村山印刷所、コロニー東村山、コロニー東村山第二	3	1	0	2	* 4	0	0
大田福祉工場	0	0	0	0	0	0	0
青葉(含第二、第三)ワークセンター	3	3	0	0	* 3	0	1
葛飾福祉工場	0	0	0	0	0	0	0
合計	6	4	0	2	7	0	1

*は前年度分を各々1件含む。



アートビリティ ギャラリー 6

「かわいい とり」
しばた こうへいちゃん(7歳)



アートビリティ

1986年障害者アートバンクとして設立。「才能に障害はない。障害者の才能は、アートの分野において健常者とかわらない」を基本姿勢に活動を続けています。登録作家約400名、登録作品約4,000点、昨年1年間の使用実績は約330点、年間の作品応募は2,000点を超えます。2002年4月アートアートビリティと改称。

「かわいい とり」 しばた こうへい(7才)
「かわいいとりをかこうとおもったら、
かわいいとりになりました。」

しばたこうへいくんは、埼玉県川口市にある絵画教室『アトリエム』に通っている、絵を描くことが大好きな元気いっっぱいの男の子です。

この絵は、丸の内バードウィーク作品展に『アトリエム』の子どもたちの描いた鳥の絵が飾られたときのひとつです。

子どもたちの描いた鳥の絵はどれもステキでしたが、中でもこうへいくんの描いた鳥の絵は、見ていると楽しくなってしまう感じがして、不思議な魅力に溢れていました。

こうへいくんがこの絵を描いたとき、とっても夢中になって描いていたことが伝わってきます。こうへいくんの感動が、見る人に伝わってくる名作です。

『アトリエム』を主宰する有泉仁美先生のコメントをご紹介します。

赤いお空は夕焼け、巣の中には卵。そんなお話をしながら、すくく夢中になって描いていました。

もう描き終わったように見えるのに、塗り終わったところに、さらにクレヨン塗り重ね、

つまようじでひっかいたり、また塗りつぶしたり、そんなことを飽きることなく繰り返していました。結果的に、微妙な色合いや独特なタッチが生まれ、

絵に生き生きとした動きや、深みが加わりましたが、本人は、そんなことは意図せず、

つまようじで削ると、下から違う色が出てくるということに、素直に感動し、削ると出てくるクレヨンのカスにも喜ぶ、というように、ただ純粹に行きを楽しんでいたようです。

バードウィーク作品展に展示された『アトリエム』の子どもたちの作品は、こどものエコムで見ることが出来ます。

(アートビリティ事務局 岡嶋 明美)

ご協力のお願い

社会福祉法人東京コロニーでは、障害のある方への支援を就労や教育、生活の面から数多くの事業を行なっています。めざすことは、それらによる障害者の大きな意味での自律支援です。

私共の事業を応援して下さる方(あるいは団体)からのご協力を、下記を窓口で常時受け付けております。ご寄付の場合は、主に新しい事業の立ち上げや先進的な取り組みを行うための財源に充当させていただきます。より多くの方へのより質の高いサービスをめざす当法人の事業に対し、今後ともご理解とご協力をお願いいたします。

(社会福祉法人への寄付は、税金が免除になります。ご寄付をいただいた際はそのための領収書を発行させていただきます。)

ご寄付受付 社会福祉法人東京コロニー 法人本部事務局(担当 加藤)
〒165-0023 東京都中野区江原町2-6-7 tel03-3952-6166 fax03-3952-6664

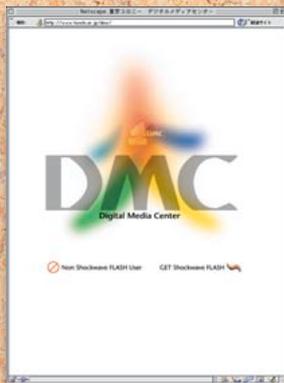
東京コロニーの ホームページ



東京コロニー メインページ
<http://www.tocolo.or.jp/>



コロニー中野・コロニー印刷所
<http://www.tocolo.or.jp/nakano/>



デジタル メディアセンター
<http://www.tocolo.or.jp/dmc/>



IT事業本部事務局
<http://www.tocolo.or.jp/syokunou/it/>



コロニー東村山印刷所・コロニー東村山
<http://www.hig.tocolo.or.jp/>



トーコロ情報処理センター職能開発室
<http://www.tocolo.or.jp/syokunou/>



アートビリティ 旧 障害者アートバンク
<http://www.artbility.com/index.html>



東京都大田福祉工場
<http://www.tocolo.or.jp/oota/>



トーコロ情報処理センター事業部
<http://www.tocolo.or.jp/joho/>



トーコロ青葉ワークセンター
<http://www.tocolo.or.jp/aoba/>



東京都葛飾福祉工場
<http://www.fireman21.net/>